

公益財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団 2022年事業報告書
(2022年4月1日～2023年3月31日)

【概要と主な成果】

2022年度は以下の5点を重点目標とし、取り組みを進めてきた。

①公益財団法人への認定

2020年2月3日に一般財団法人として当財団は事業を開始しました。この間、コロナと共に寄付を呼びかけ続け地域に必要な様々な資源をつないできました。その積み重ねの結果、2022年6月15日に大阪府公益認定委員会から公益法人認定を受けることができました。同時にパブリックサポートテストを通過し、公益財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団への寄付が税制優遇措置(寄付金控除)の対象となった。

②コミュニティ財団としての資源仲介の本格化

2020年度は「私と地域と世界のファンド」(特定非営利活動法人関西 NGO 協議会・社会福祉法人大阪ボランティア協会・当財団)を通じて7,960,448円の支援を行い、2021年度は泉北子ども未来基金助成として338,153円を交付し、医療機関支援(47コロナ基金大阪)助成原資6,300,000円を5医療機関へ助成を実施した。2022年度は、休眠預金活用事業に採択を受け、4500万円1団体、3000万円2団体への大型助成プログラムを実施できた。本事業の中長期アウトカムである「自走型自治モデル」の実現を通じて、地域課題解決のモデル化に大きな一歩を踏み出した。

③団体支援拠点「泉北ラボ」の安定化

2022年1月に事業を開始した、当財団の団体支援拠点「泉北ラボ」は2022年度に、シェアキッチン部門 年間レジ通過者数 のべ17,212人、泉北ラボレジ通過者数 797人、コミュニティフリッジ利用者数 のべ1,232人、1年間の交流人口 19,241人と泉北ニュータウンにおける新たな自治を補完する拠点としてのモデル化を進めている。

④遺贈寄付基金の発信強化

遺贈寄附受付窓口を開設し、PRチラシ作成に加え、地域に寄附する市民を増やすための土業向け・市民向け勉強会を実施した。地域における新しい資金循環を生み出すための、土業とのネットワーク構築の一步が始まった。

⑤他地域のコミュニティ財団の設立支援を通じたノウハウ移転

全国のコミュニティ財団やコミュニティ財団設立を目指す組織の運営支援、ヒアリング対応や公益認定に向けた支援に取り組んだ。 ※設立支援:1団体 運営支援:4団体

【2022年度の主な取り組み／ニュース】

- 公益財団法人として大阪府に公益認定及び寄付控除の資格を得た。
- 大型助成プログラムの実現
- 乗組員(スタッフ)4名の雇用開始
- コミュニティフリッジ(みんなの公共冷蔵庫)寄付実績年間120万
- 泉北ラボの年間利用者数1万6千人
- 遺贈寄付勉強会の実施

【事業の構成】

1. コレクティブインパクト推進事業
2. 助成プログラム事業
3. 啓発事業
4. 管理業務

【事業の内容】

1. コレクティブインパクト推進事業

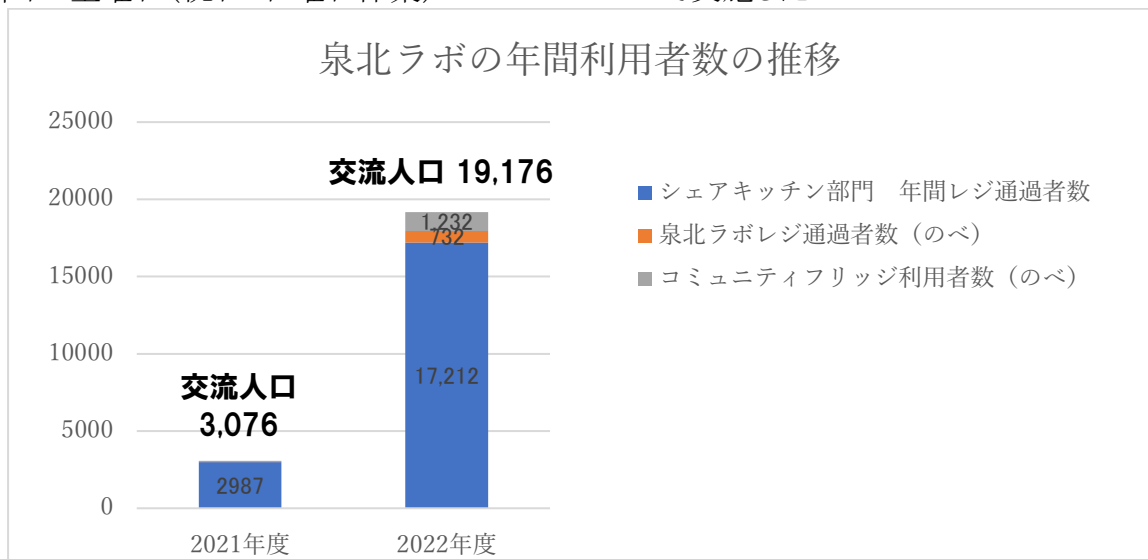
①団体支援拠点「泉北ラボ」の運営を通じたコーディネートの実施

泉北ラボは私設公民館・まちの家事室として地域の居場所を提供し、地域の暮らしの困りどが集まり、一つづつの困りごとを解決できる専門家や個人へ接続することを目的に運営している。また、大阪健康福祉短期大学堺・泉ヶ丘キャンパスのめざす「シェアタウン泉ヶ丘ネクスト」の実現を目指す地域の交流拠点としても活動を行っている。

今年度は、下記機能を提供し団体支援拠点として1年間の営業を継続した。

□開館実績

平日・土曜日(祝日・日曜日休業)10:00~18:00で実施した



□事業成果

「泉北ラボ」の運営での関係人口が増加した。増加している

内容	指標
会議室、ワーキングスペースの貸し出し	のべ232団体 貸室利用料収入 781,750 円
まちの家事室コインランドリー	のべ 191 人 利用料収入 95,500 円
コワーキングスペース	のべ 309 人 利用料収入 54,850 円
印刷機の貸与	利用料収入 46,025 円
視察利用	64,500 円

コミュニティフリッジ(地域からの寄附を配分する冷蔵庫)の仲介・管理

内容	指標
コミュニティフリッジ利用者	のべ 1,232 人(登録数 76 人)
食材・日用品の寄付	提供登録者 53人・団体 1,283,063 円(定価での換算)

□今年度注力したこと

- ・泉北ラボ実行委員会を通じた運営体制の設定
→年 12 回のコーディネーター会議を実施し運営課題や利用者への社会資源仲介について検討を行った
※生まれた取り組み例 チクチク会、地域包括×市民団体まち歩き
連合自治会×大阪健康福祉短期大学との花植え活動
- ・運営コーディネーターの充実
泉北ラボを利用する団体や相談者など関心のある市民への機能の充実を行った
→運営コーディネーター週 3 日参加するボランティアが4名生まれた。また、コミュニティフリッジの当事者として活動し、地域の NPO への就職につながったコーディネーターが1名生まれた。

②泉北ラボ実行委員会を中心とした支援者と資源のコーディネートの実施

泉北ラボコーディネーターが得た地域課題について検討を行い下記のコーディネートを実施した。

□今年度注力したこと

地域の支援者とそれぞれ信頼関係を構築するために協働で事業を行った。

- ・堺市南区役所子育て支援課を通じ児童扶養手当受給者などへコミュニティフリッジの PR 活動を実施した。
- ・高倉台校区連動自治会と連携し連合自治会 5 役会議に毎月12回参加し情報連携した
- ・泉北ラボ近隣の三原台中学校と連携しフードドライブを実施した
35 名の中学生が中心となり、4.5kの食材を中学校内で寄付を募った

□次年度への課題

これまで支援者とネットワークを組み、1 件ずつ課題を解決してきたが

- ・高倉台西校区にて子育て地域円卓会議の開催(偶数月・年6回)
- ・クラウドサービスでの堺市南区と地域円卓会議の情報連携
4～7月 運営課題の洗い出し・データベース入力実施
8月～ データベースを通じた社会資源への接続

③おかず BOX の普及拡大支援

□今年度注力したこと

- ・おかずボックスを今年度は原山台・城山台に範囲を拡大し、継続実施した

対象校区	竹城台東校区、茶山台校区、福泉中央校区、城山台・原山台
合計食数	12ヶ月開催 1,335 食 (2021 年度実績 1,096 食/2020年度実績 658 食)

□次年度への課題

- ・泉北ラボ・コミュニティフリッジとの仕組みの連携や実施範囲の拡大
新しい担い手を生み出すなど、今後の展開が求められる

④事業評価の実施

□今年度の取り組み

今年度は泉北ラボの仕組みづくりに注力したため事業評価指標の設定及び事業評価を実施できていない。

□次年度への課題

評価のための指標はデータ化されているが評価するための体制構築が求められる

※定款に定める事業(1)(2)(3)(7)(9)

2. 助成プログラム事業

(1) 集める

①遺贈寄付基金の開設

□今年度注力したこと

- ・全国レガシーギフト協会と連携し基金に寄附財源を増やすためのチラシを作成した
- ・遺贈寄付の勉強会を開催した

2023年3月1日 15時～17時 参加者 10名

テーマ「遺贈寄付の基本」全国レガシーギフト協会の齋藤弘道氏

→弁護士や公認会計士、地域のNPOも参加し遺贈寄付機運向上のキックオフとなった

②泉北子ども未来基金

□実施について

- ・財団独自に地域のクラウドファンディングプラットフォームを作成した
<https://communityinvestment.jp/>
- ・今年度は助成プログラムの実施体制を整えることができず未実施

□次年度への課題すること

- ・未来基金への安定収入をめざす
- ・基金に寄附財源を増やすためのパンフレットを作成する
- ・地域誌・ケーブルテレビを通じた発信を行う
- ・泉北クラウドファンディングサイト設置
クラウドファンディングを行う

③事業指定寄付プログラムの実施

□実施について

- ・当財団の賛助会員として指定寄付を公募し19人から177,111円の寄付を集めた
- ・当財団の運営寄付プログラムとして220万円を2名の方からご寄付いただきたい。
- ・財団独自に地域のクラウドファンディングプラットフォームを作成した
<https://communityinvestment.jp/>
- ・今年度は助成プログラムの実施体制を整えることができず未実施

□次年度への課題

- ・当財団の運営寄付プログラムへの寄付の安定が必要となる
- ・プロジェクトチームを理事会に発足し、検討を開始する
- ・分野別・テーマ別事業指定寄付基金を設置する

④事業評価の実施

事業評価を実施できていない。

□次年度への課題

評価のための指標はデータ化されているが評価するための体制構築が求められる

(2)分配する

①泉北ニュータウンの孤立と地域をつなぐ助成の実施

- ・休眠預金等活用法に基づく資金分配団体として草の根事業支援の助成対象事業
- ・助成総額 1.53 億円
- ・実施時期 通年

□今年度注力したこと

■審査の過程

公募開始	2022年4月15日
一次審査締切	2022年5月30日
一次審査結果通知	2022年6月3日
応募書類の締切	2022年6月30日
審査委員会より、各申請団体に質問事項を送付	2022年7月11日
審査委員会の開催	2022年7月15日 17時00分から21時30分まで

■審査の対象

- ・ 応募書類(公募要領に基づく申請書類様式1～8、団体情報に関する書類(定款、決算書類他))
- ・ 申請団体のプレゼン及び質疑応答
- ・ (プレゼン7分:事前に送付した質問事項に対する回答+8分質疑応答)

■審査内容(採点内容)

各項目に荷重をかけて200点満点で採点した。

ガバナンス・コンプライアンス(10点)

事業の妥当性(40点)

実行可能性(40点)

継続性(30点)

先駆性(革新性)(10点)

波及効果(20点)

連携と対話(30点)

事業の評価(20点)

計 200点

■審査

- ・ 各審査委員の仮採点を基に、委員間で協議後、本採点とともに採用理由を確認して結審した

■審査結果

審査区分:A型

団体名	NPO 法人福祉ワーカーズほーぷ
-----	------------------

	https://i-hope.info/
申請事業名	福祉コミュニティモール開設事業
平均点	140. 2点(参考:次点129. 2点)
審査委員会 コメント	社会状況や課題の問題構造の把握が十分に行われており、本助成プログラムにおいて設定した課題に対しての事業の妥当性並びに実行可能性が高く評価されるとともに、多様な関係者との協働について事業の準備段階から終了後までの体系的な連携と対話が設計されており、地域との連携を大切にしている点から高い波及効果が期待される。

審査区分:B 型

団体名	特定非営利活動法人志塾フリースクールラシーナ https://lacina.shijuku-fs.org/
申請事業名	不登校の子どもと地域の子どもがゆるくつながる居場所事業 泉北ひみつ基地
平均点	139. 8点
審査委員会 コメント	社会状況や課題の問題構造の把握が十分に行われており、本助成プログラムにおいて設定した事業の妥当性並びに実行可能性が高く評価されるとともに、多様な人の参加の仕組みを生み出しながら、地域の新しい拠点としての波及効果が高く、連携と対話の構築を通じ地域自治への還元が期待される。

団体名	特定非営利活動法人団地ライフラボ at 茶山台 https://danchilifelobo.hp.peraichi.com/
申請事業名	孤立を生み出さない、地域の声・困りごとをみんなのアイデアで解決する関係づくり ～日本一多様な幸せが実現できる団地をめざして～
平均点	平均点:131. 6点(参考:次点118. 2点)
審査委員会 コメント	社会状況や課題の問題構造の把握が十分に行われており、本助成プログラムにおいて設定した課題に基づく事業の妥当性及び先駆性が高く、多様な関係者との協働、事業の準備段階から終了後までの体系的な対話が想定されている点について連携と対話、波及効果について期待される。ただし、今回の助成プログラム公募時期に新たに結成された団体であり、団体構成員の実績はあるものの、団体としての実績がないことから、より精緻な経営戦略を十分に練り上げるとともに、助成後 2 年を目途に自立性を担保できるよう努めることを付帯条件として採択する。

■事前評価の実施

社会的インパクト評価に基づいた事前評価計画を実施した。

その結果、本事業のロジックモデルを設定した。その結果、中長期アウトカム を「自走型自治モデル」とし、支援者のネットワークを構築し、地域経済が持続的に循環する自治モデルをめざすことを設定できた。

■ 実行団体の基盤強化

実行団体の組織基盤強化のための研修会や学習の開催を通じて、基盤強化のための支援や協力を実行した。2022年9月評価研修、及び毎月の定例MTの定期開催を行っている。

■ ファンドレイジング支援のための準備

- ・財団独自に地域のクラウドファンディングプラットフォームを作成した
<https://communityinvestment.jp/>

■ 伴走支援の実施

実行団体 3 団体との毎月の定例ミーティングを実施している。(24 回実施)

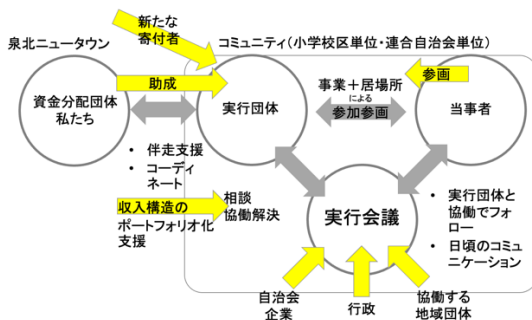
□ 次年度への課題

- ・ 地域の自治モデルへつなげるための伴走支援の強化(組織基盤強化/ファンドレイジング)
- ・ 評価の定期的な確認の実施
- ・ 空き家・空き団地・空き室を拠点とし活用したコミュニティビジネスの支援
- ・ 空き家・空き団地・空き室をソフト事業の活用モデルの情報発信

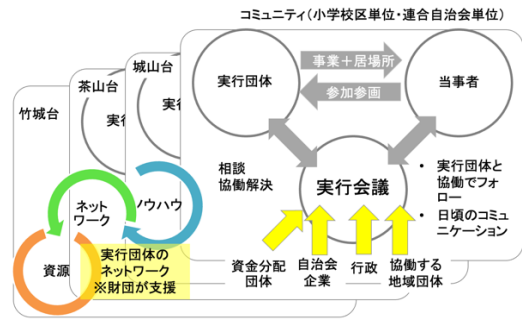
② 事業評価の実施

事業評価のための事前評価を実施した。中間評価を2023年秋に実施する。事前評価では3実行団体のロジックモデルと評価のためのアウトカム・アウトプット指標を作成し、その総合成果を取りまとめる形で、資金分配団体としてもロジックモデルと評価のためのアウトカム・アウトプット指標を設定した。その中で、本事業を通じて支援者のネットワークを構築し、地域経済が持続的に循環する自治モデルとして自走型自治モデルを各地域で実現できる状況をめざしている。

○ 支援の枠組み



○ めざしている中期アウトカム



□ 次年度への課題

評価のための指標はデータ化されており、評価するための体制構築が求められる

※定款に定める事業(4)

3. 啓発事業

(1) コーディネーター

① 遺贈寄附受付窓口の開設

- ・ 地域に寄附する市民を増やすための土業向け・市民向け勉強会を実施した。
- ・ 遺贈寄付の勉強会を開催した

2023年3月1日 15時～17時 参加者 10名

テーマ「遺贈寄付の基本」全国レガシーギフト協会の齋藤弘道氏

→弁護士公認会計士、地域のNPOも参加し遺贈寄付機運向上のキックオフとなった。

□次年度、注力すること

- ・いぞうの窓口のPR
- ・泉北ニュータウン住民や士業へのPR

②ニュータウン大学の開催

泉北の新たな地域課題解決の担い手を増やす講座を企画した。

③堺市南区子ども応援プラットフォーム「ココ×カラ」事務局

プラットフォーム加盟団体を中心にオープンチャットを運営し、団体間の情報交流を行った。

④事業評価の実施

※定款に定める事業(5)(6)(7)(8)

(2)地域課題調査の実施

泉北ニュータウンの孤立と地域をつなぐ助成の事前評価を各団体と実施した。その結果、高齢者の孤立、ひきこもり当事者の孤立、独居高齢者の孤立など多様な社会的孤立を調査した。

■次年度への課題

- ・泉北や周辺地域で活動する団体へのヒアリングを実施する
5月～7月 調査 / 8月～12月 サイトへの掲載
パートナー 大学生などインターンを公募して実施する
- ・泉北ニュータウンの子ども・保護者の実態を把握するためのアンケート調査
4月 連携可能校区への呼びかけ
5月 調査の実施
6月 速報発信、プレスリリースの発行

4. 管理業務

(1)公益認定法人取得

2022年6月15日より大阪府公益認定委員会より、公益認定法人を取得した。

同時にパブリックサポートテストを通過し、公益財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団への寄付が税制優遇措置(寄付金控除)の対象となった。

□次年度の課題

コンプライアンス委員会や個人情報の保護などガバナンス体制の強化

(2)内部管理体制

□今年度の成果

- ・ 寄付者管理・寄付証明書発行のクラウド化によるワンストップでの業務改善、公益法人に求められる健全な内部管理体制整備(規程類の整備および見直し)
- ・ 従業員(乗組員・3月末時点4名)の雇用に伴う、マニュアル類の整備を行った。

□次年度の課題

ガバナンス基盤を高める役職者研修や業務マニュアル類の整備

(3)研修・他地域交流

□今年度の成果

- ・ 代表理事が全国コミュニティ財団協会に引き続き加盟し、協会の理事となった。

それに伴い、2023年1月11日(水)13時半～17時半開催、全国コミュニティ財団協会第9回年次大会の実行委員長を務めた。

<https://www.cf-japan.org/newspress/1189/>

- 全国コミュニティ財団の実施する2021年度休眠預金助成金による、【公募終了】2021年度休眠預金等活用事業「地域の資金循環とそれを担う組織・若手支援者を生み出す人材育成事業」に置いて、伴走支援者として参画し採択された4団体への研修講師や、1団体への伴走支援を実施している。
- 全国コミュニティ財団の実施する災害時クラウドファンディングの構築と運営を、担当理事として参画し、他地域への災害時独自クラウドファンディングのノウハウ提供及び支援を行っている。

(4) 賛助会員

□今年度の成果

安定的な財源確保および本財団支援者の拡充のための会員の獲得を実施した

- 2022年12月賛助会員募集を実施した。その結果、119,000円の会費を得た。
- 当時に、下記3つの取り組みに活用できる運営寄付を実施し 2,302,112円の寄付を得た。
 - ①子どもを中心とした社会課題解決のコーディネート等
 - ②コミュニティフリッジをはじめ泉北ラボの運営管理費
 - ③財団の運営管理費

□次年度の課題

本格的な賛助会員募集をWEBと紙媒体でPRを行う

(5) 情報発信

□今年度の成果

- ホームページ・SNSでの発信を強化した。
 - ホームページ <https://semboku-fund.org/>
 - コミュニティフリッジ専用ページ <https://semboku-fund.org/communityfridge/>
 - クラウドファンディングサイト <https://communityinvestment.jp/>
 - 各支援先の特集記事 <https://communityinvestment.jp/activity-log/>
- SNS
 - 泉北ラボ Instagram <https://www.instagram.com/lovesenboku/>
 - 泉北ラボ Facebook ページ <https://www.facebook.com/love.senboku/>
 - 財団 Facebook ページ <https://www.facebook.com/semboku.fund.org>
- メディア掲載
 - 読売テレビ かんさい情報ネットten. 2023年1月19日放送
<https://www.youtube.com/watch?v=yQF4uJDxNdo>
 - Jcom LIVE ニュース(生中継) 2022年6月6日放送
大阪スマートシティパートナーズフォーラム
<https://smartcity-partners.osaka/senbokulabo/>
 - 大阪府公益法人グループ 公益法人の取組の紹介
「大阪府では様々な公益法人が、広く社会に役立つ公益目的事業を実施しています。より多くの方にその活動を知っていただくために、大阪府所管の公益法人が行う様々な特色のある取組として紹介」

<https://www.pref.osaka.lg.jp/houbun/koueki/torikuminosilyoukai.html>

三原台中学校 「地域密着型楽しいカフェについて」

<http://www.sakai.ed.jp/weblog/files/sakai129/doc/85395/6236914.pdf>

堺アーツカウンシル地域でのアート活動を学ぶ勉強会 第2回「集まる場から作る仲間の増やし方」

https://www.city.sakai.lg.jp/kanko/bunka/art_katsudoshien/sakai_artsCouncil/stedy_kouryu/r4.html

□次年度への課題

設立5周年に向けた発信の強化

寄附者への説明責任を果たすための情報発信の強化

アニュアル・レポートの発行

視察やコンサルティングなどノウハウ移転業務の検証

(6)運営

中長期的視点を持った健全な財務運営の維持のために事業を改善するために理事会を毎月開催し議論を行った。

□次年度への課題

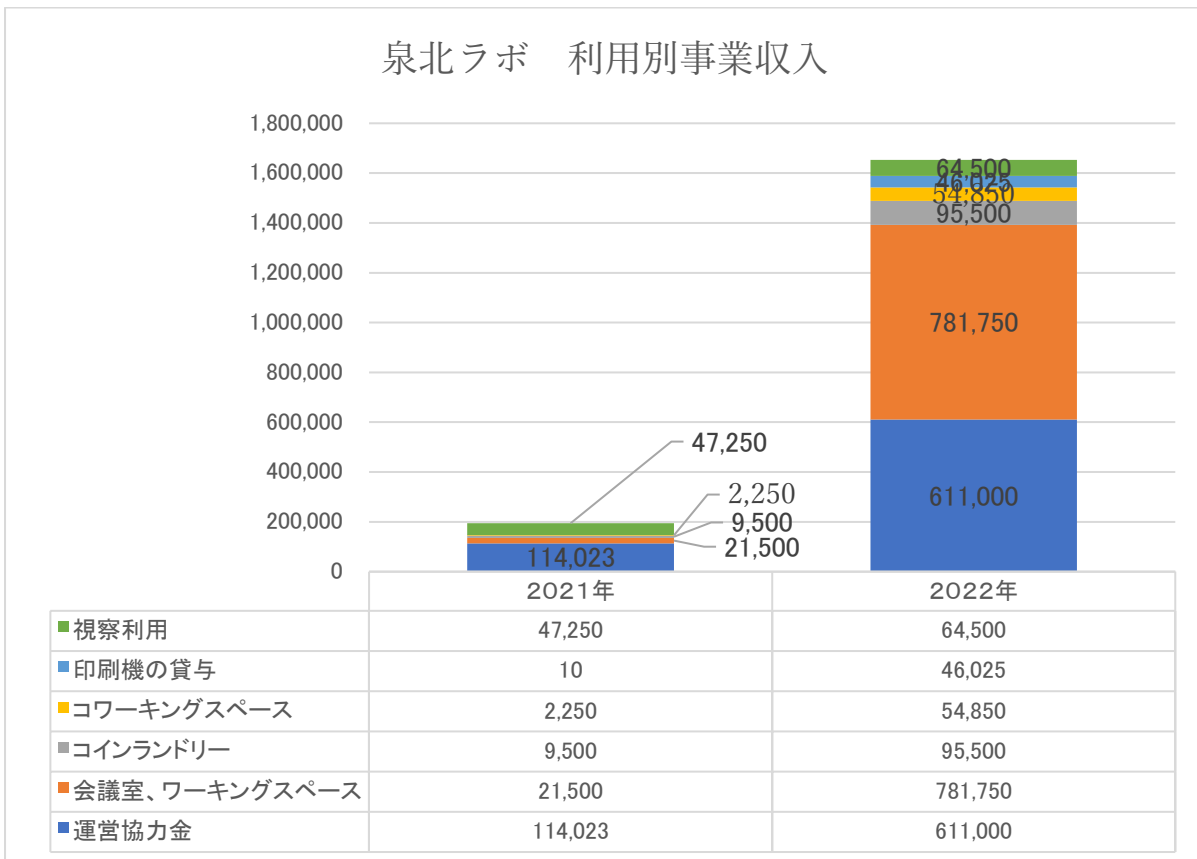
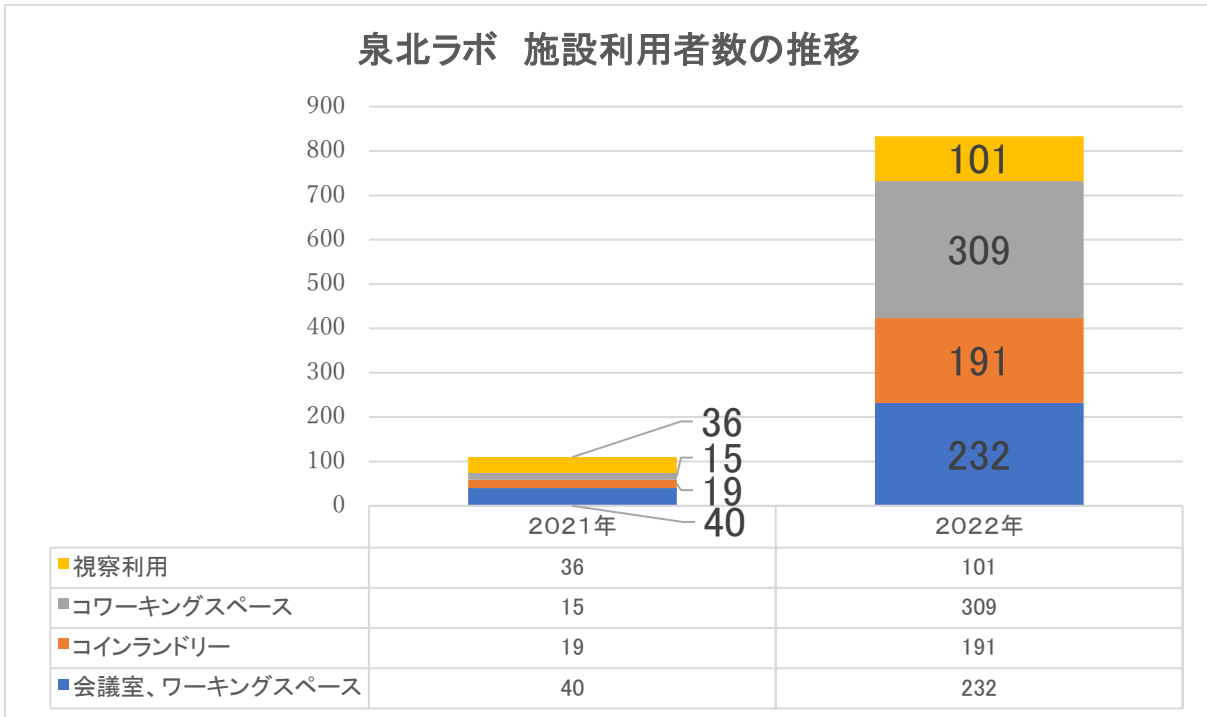
・5～10年後を見据えた中長期ビジョンの設定

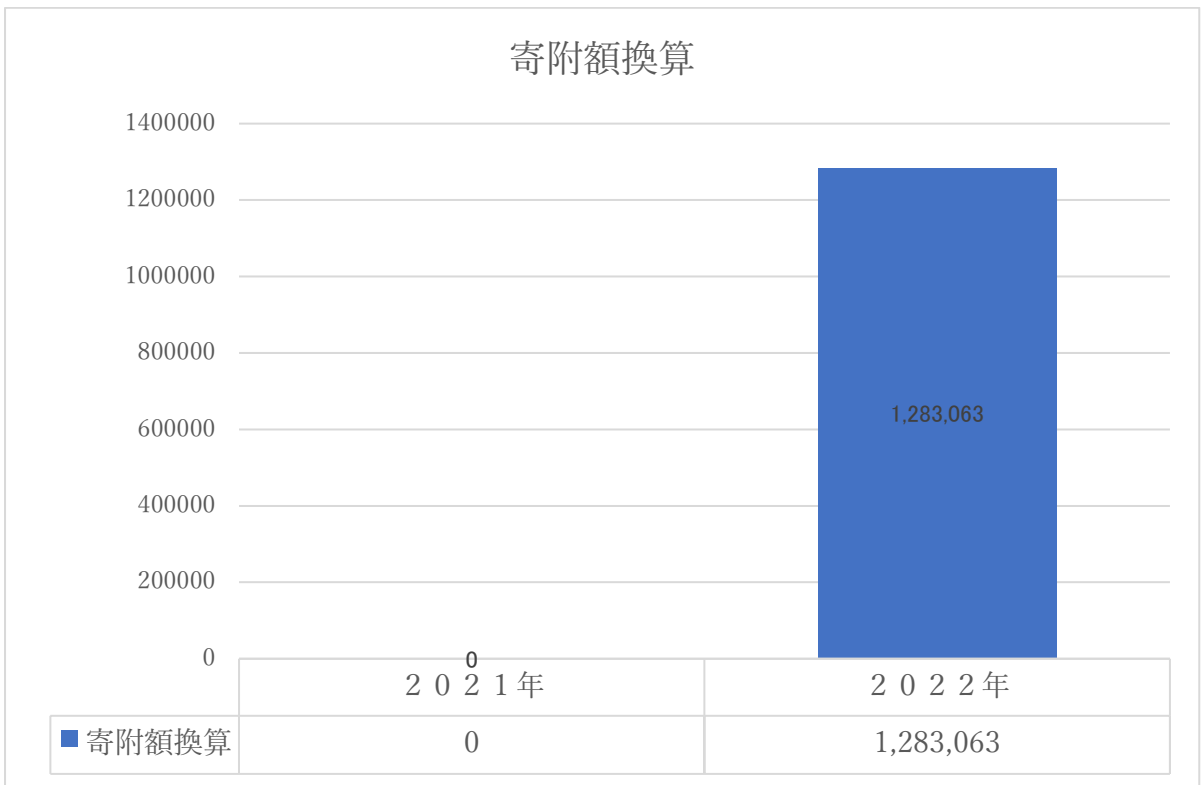
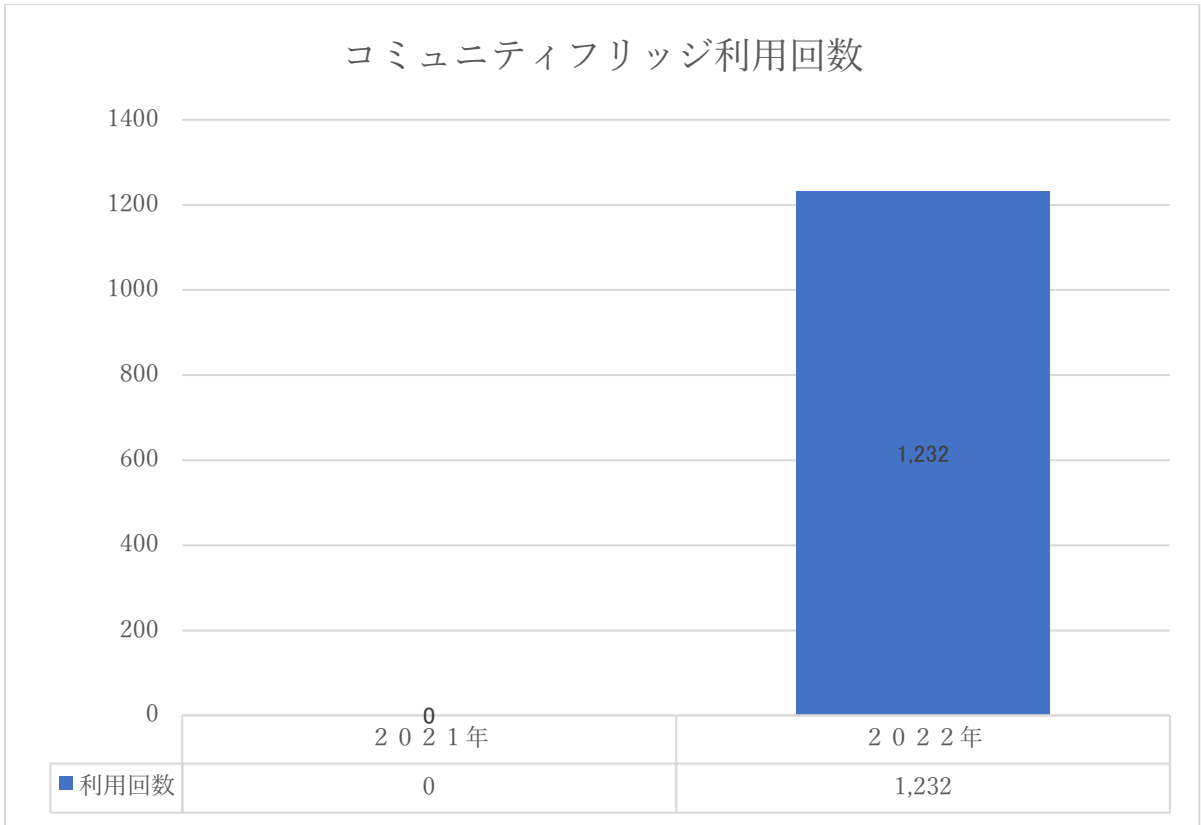
・業務担当理事、業務担当職員など法人一体での運営の検討

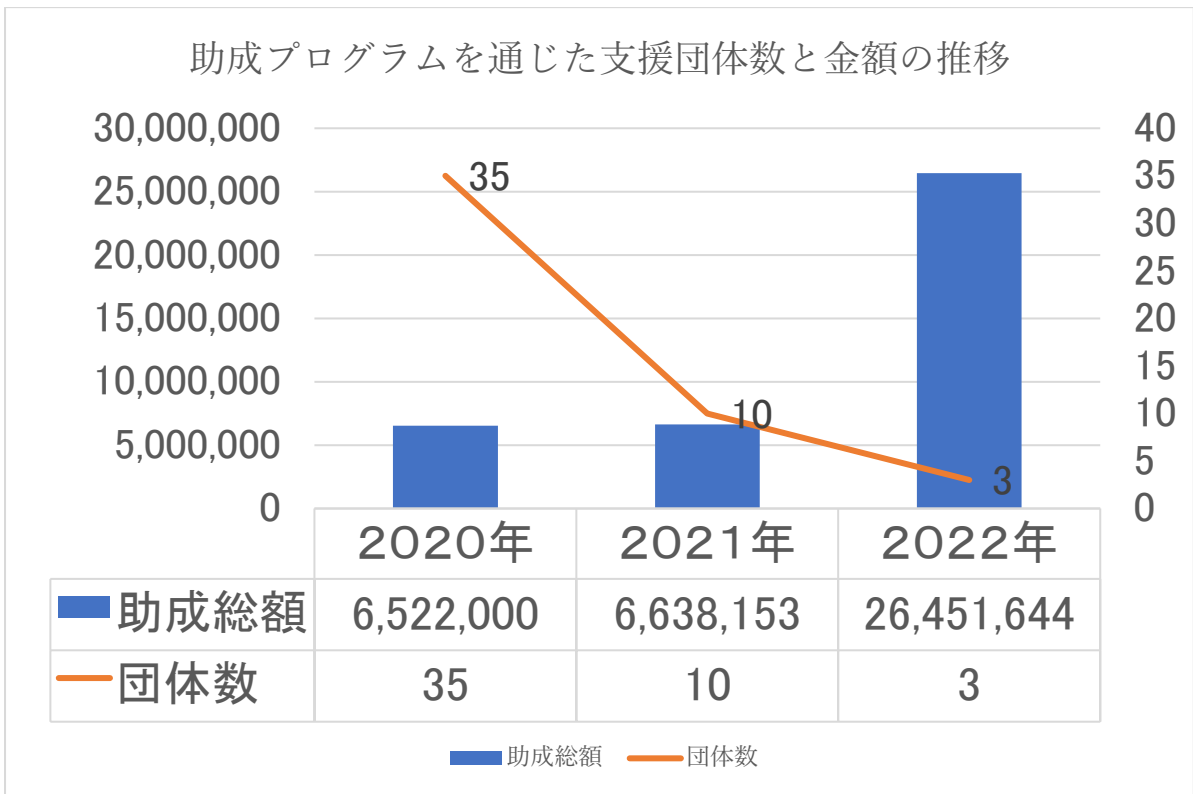
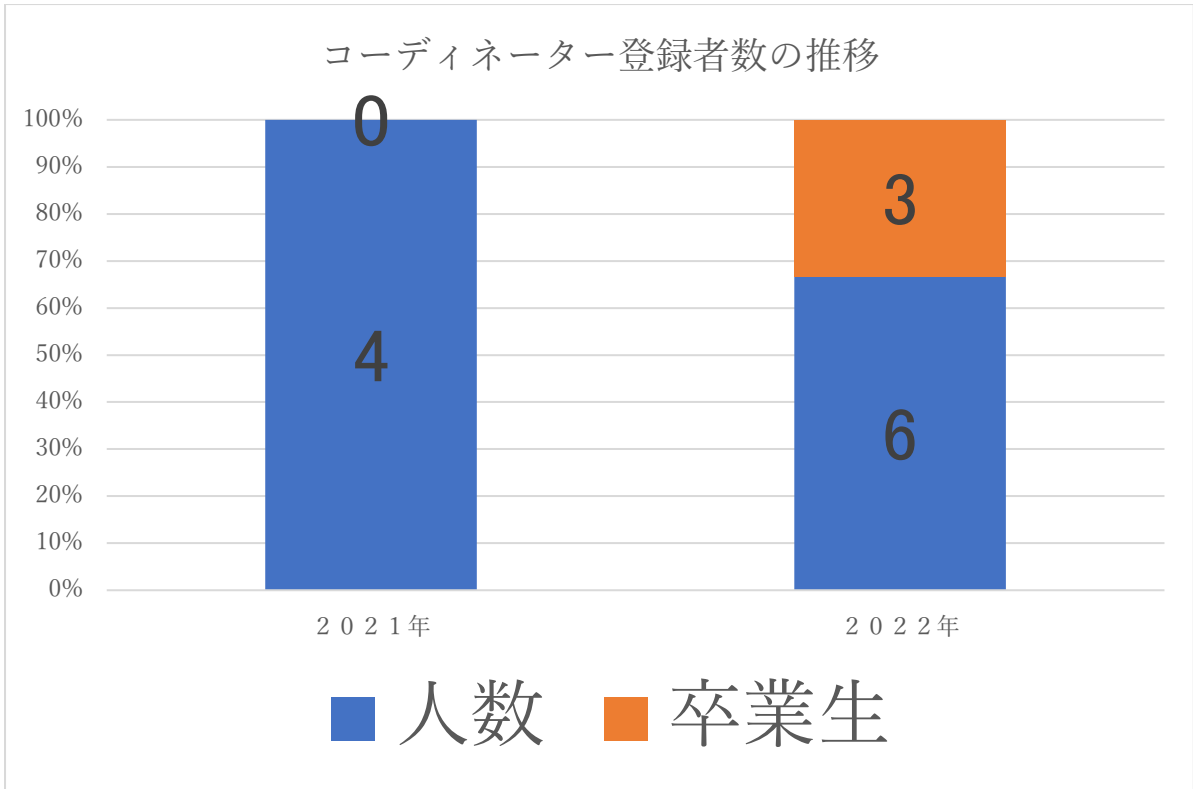
以上

資料集

図①団体支援拠点「泉北ラボ」の運営を通じたコーディネートの実施







年間寄付額と寄附者の推移

